

“小さな群れよ、恐れるな。あなたの父はよろこんで神の国をくださる”（ルカ12-23）

小さな群れ

カトリック美唄教会
2022年11月 No.306
2022年10月30日発行

Fr.Narciso Cavazzola ofm

11月1日諸聖人を祝う日です。聖人は特別な人間ではなくて私とあなたと同じ人間ですが、しかし私とあなたと違うのは、聖人は百パーセント愛徳の道を歩んだ人です。



教会は、最初の中から殉教者の殉教記念日を祝ってきました。しかし、ディオクレティアヌス皇帝の時代（4世紀）の迫害のころからは、ある特定の日（復活節中のある日、または聖霊降臨最初の主日）に祝っていました。

私たちは諸聖人が、今は神のもとにあって、私たちのために取りなしてくださっていることを信じ、諸聖人とともに、喜んでこの日を祝います。

諸聖人を祝って、今度は11月2日、神に仕えて亡くなったすべての人を思い起こし、死者のための祈りを共にします。地上の「生」を超えたいのちに、私たちの心を開かせてくれるのが死者の典礼です。

教会は、死者のために祈ることにより、生きている人だけでなく、亡くなった人をも含む、交わりの共同体であるという考えを深めてきました。

亡くなった人のために祈る日の中心は、いつもと同じキリストの死と復活の秘義です。

日本の教会では、日本社会にキリスト教本来の希望にみちた死生観と、祖先崇拝に福音の息吹をという心遣いから、『祖先と死者についてのカトリックの手引き』が出されています。

この本は、葬儀やお墓のことで戸惑いや疑問を抱いたことのある方に答えてくれます。



2022年11月 主日ミサ・平日のミサ 予定

11月朝の祈りは死者の為です

日	曜	ミサ		各種勉強会	会議・その他事項
		主日・祭日	時間		
4	金		午前 10:30	ミサ後聖書に親しむ	
6	日	年間第三十二主日	午前 11:00		
11	金		午前 10:30	ミサ後聖書に親しむ	
13	日	年間第三十三主日	午前 11:00		ミサ後運営委員会
16	水		午後 6:00		ロザリオの祈り
18	金		午前 10:30	ミサゴ聖書に親しむ	
20	日	王であるキリスト	午前 11:00		
25	金		午前 10:30	ミサ後聖書に親しむ	
27	日	待降節第一主日	午前 11:00		

《 平日のミサ 》 **金曜日のみ 午前 10:30** 4・11・18・25日です
 《 聖書を親しむ 》 平日のミサ後、旧約聖書に親しんでみませんか。

霊名の祝日			清掃当番	花当番
17日	エリザベト	加賀 秀子 菅野 瞳 船野 美津子	第2週 山本、板垣 第4週 船野	東
22日	セシリア	中村 信子		

【お知らせ】

- ◎11月は死者の月です。死者のためにミサを依頼しましょう
- ◎クリスマスクッキーの注文受付します（三間）

雑 感

幼き聖テレジア 蓮井 愛

原稿の依頼を受けあいまいな返事をした結果、何をどう書こうかと考え、頭の中に浮かんで来た事を書くことにしました。

結婚

古い話で恐縮ですが、私が津軽海峡を越え北海道に住み始めたのは25歳です。教会で挙式をし、弘前駅で神父さん始め友人知人と別れをおしみながら青函連絡船に乗りました。一路網走に向かって来た事を記憶しています。当時の北海道は未開の地で刑務所と熊の出る町と友達たちは認識していました。結婚に至っては教会のある所なら遠くても行くと決めていたので、夫なる人は網走に教会もあり飛行機をとばしている神父さんに会った事など聞かされ、それならばと結婚に至った次第です。

茶の間からオホーツクの青い海が見え、冬には海が白い流氷となり、春の海明けの往来は特別な美しさを感じました。

長男長女の幼少期は藤幼稚園に。3人のシスターがおられ隣りに教会があり、オランダ人の神父さんが住んでいて楽しい思い出でも沢山あり、夫と共に子育て、教会の一員としてお手伝いに励んだ時期を思い出します。

転勤

美唄では炭坑が閉坑になり、町がざわついている頃と聞かされました。希望として高校の数の多い所。幸い美唄は4校の高校があり安堵した事です。将来子供達がその中の一校に入学出来ればと実に簡単な考えでした。塾にも行かず遊び放題の生活。テスト数日前からのわか勉強の繰り返しです。その頃、私もあせりをおぼえました。PTA役員に指名されて学校行事に参加しお手伝いにも参加し時間を有効に使っていた事を記憶しています。

二人の子供も大きくなりそれぞれ美唄を離れ学生寮に入り、卒業後はそれぞれ仕事につきました。が、決して楽な道とはいかず、それぞれつらい経験と努力との結果と思います。長男は特に神父さん方の近くで過ごし見えない安心感がありました。

二つの病気

12年程前、年末で子供達も集まりにぎやかな折、足がもつれ出し、翌日市立病院から救急車で砂川に運ばれ入院検査の結果、水不足による脳梗塞と診断され、恐れていたものがやって来た。人生終わりと思ったものです。2週間で退院。リハビリせずそのまま家での仕事。診断書と薬をもらって電車に乗って主人と帰って来ました。月日が経つにつれ、不自由さを感じてよく泣いたものです。町を歩いていても人と会ってもタクシーに乗ってもなんの理由もなく悲しくなり泣きました。

眼病とも毎日のおつき合いです。目が開かないのも辛い事です。

今に生きる健康な高齢者はパークゴルフやディサービス、ゲームと自分に合った遊び方をえらんで楽しみ、社会とつながり人生100年をかかげています。私は今こと。人様の親切にふれ涙し、自分の出来る事を見つけ行動するのみ。6時に起床し早朝血圧を計り記録する。目の調子を整える。薬をのみ安静を保つ。聖書と典礼を音読する。CDを聞き主に典礼聖歌。電話での会話など。教会のお手伝いも出来ず心苦しく思います。今は感謝することを心がけています。よろしく願いいたします。

北海道に住んで60年弱、弘前教会での生活は忘れた事はありません。

結びに

詩編90

神の計らいは限りなく生涯

私はその中で生きる

